

討議のポイント

■組織的な調査活動を通しての財政基盤強化や保護者負担軽減の実践について

(石狩) 予算要望書づくりで、配分消耗品費に対する印刷経費(用紙、トナー等)の割合をデータ化し、50%を超える状況になったらきちんと配分してほしいと市教委に要望している。(第1)

(当新) 保護者負担軽減にどの位回せるか把握するために調査は大切。次年度は半紙を公費化することを確認。(第3)

(江別) 教材費等調査を継続している。3年前からファイルや用紙代等中身を絞って洗い出している。夏季研修会で、小学校ではファイル類を重点に各校で取り組むことの確認をし、中学校では生徒手帳から手をつけられないかとの話が出ている。手帳を廃止して身分証明書を発行する等の事例があった。(第3)

(北広島) 徴収金と旅行行事の調査について、次年度から小中一貫教育がスタートすることから、費用の問題だけではなく、旅行先が重複するといった問題を避ける等、小中一貫会議の材料とすることを考慮して実施。加配事務職員も徴収金や就学援助を業務としている学校が多かったため、調査に回答しやすい。教材費の調査は初だが、用紙類やファイルの公費化を全体の取り組みにする予定。(第3)

(恵庭) 連携会議で予算要望の目玉を決めて取り組む。今年はチャレンジテストの用紙代。だがこれは保護者負担軽減にはつなげていない。(第4)

(千歳) 調査結果を基に市教委に予算要望をするなどが考えられる。市の施策等により、必要な予算が生じた(学力向上施策推進によるドリル費の増加など)際に活用できるのではないか。(第2)

■「取り組みへのアプローチ(イメージ)の可視化」により「保護者負担の公費化」を確実に継続し拡大を図る実践について

(当新) (フラットファイルの公費化) 各校における学校徴収金のデータを集め、実現可能な品目を検討した。フラットファイルは既に取り組んでいた学校もあったため、比較的取り掛かりやすいだろうということで全校で取り組んだ。(第2)

(当新) 資料6, 7にある公費化のイメージ図をもとに、今年度は半紙の公費化に取り組んだ。ただ、8ページにあるように表を作ることが目的ではなく、事務職員がどう活用するかが問題だ。(第4)

(千歳) 保護者負担軽減推奨リストを表にして、各校の取り組み状況を可視化した。取り組んでいるのに報告していないものもたくさんあるはず。(第3)

(石狩) どういった資料が予算要望に有効か検討を重ねている。夏休み帳のように、調査では上がらなかったものがグラフを用いた交流の中で出てきたので、可視化は有効だったと考える。夏季研修会でPFシート(公私費区分)を市内で取り組む提案がされ、次年度に向けてまとめている。(第3)

(江別) 各種調査結果を一覧にして夏季研修会で交流している。教材費の内訳等、不明確な部分の精度を上げたい。(第3)

(北広島) イメージ化として取り組んだつもりはないが、見て分かる資料を作成している。旅行的行事については教育課程委員会で資料として活用された。(第3)

(恵庭) 調査結果資料はなるべく1枚物に。学級費を含めた用紙代削減に職員会議で活用。(第3)

(石狩) 経験年数の少ない事務職員にとって、可視化はどう機能しているか。(第3)

→読めば理解はできるが、最初は何が可視化か分からなかった。(石狩)

→自分が理解できれば先生方にも理解してもらいやすいとの根拠にできた。知識が0では発想も生まれないので、先輩方の資料を参考に取組みればと思う。(江別)

→見る側には分かりやすいが作る側は大変そう。(千歳)

→先生方にとっても分かりやすいと思うが、事務便りも反応が薄いことがあるので、文字ばかりでなく見た目に訴えることが必要。(千歳)

■組織的実践につながる各校の工夫・節約等による財源確保や公費化を図る実践について

(江別) 生徒会誌の業者選定により、生徒会費を下げる事ができた。節約により公費負担にできないかを考えている。(第1)

(北広島) きっかけが大事。名札が製造中止になり、ホルダータイプにした。半紙を公費化

する等の細かい取り組みをしてきても、先生方から学力・QUテストをもう一回やりたいという意見が出て通ってしまえば、それまでの取り組みが一気に覆るという無力感がある。

(第3)

(北広島) 生徒手帳の公費化について、市教委から2校以上になれば考えると言われたことがある。選挙に対する教育の観点から、規約等が載っていることから(生徒手帳)無くしていいのか考えてしまう。(第4)

(プリントフリー)

○大きい学校で2台入れるとマスター、インク代がかなり押さえられる。今年から利点、問題点について交流している。(第1)

○現任校に来てからすぐに導入した。一ヶ月間の試用期間があったため、お試しとして契約。先生方からは、色々な文書をカラーでプリントできる、と高評価だった。輪転機・コピー機を使っていた頃に比べ、印刷費は半分以下になった。その削減分で名札を公費負担にすることも出来た。印刷スピードが遅い点はデメリットだったが、2台目を導入することで解消できた。(第2)

✖紙詰まり、インク切れ、紙切れ等のエラーも多いため、プリンタにつきっきりになる人が必要となってしまう。(第2)

✖一度カラーばかりの印刷に慣れてしまうと、先生方の声としてなかなかやめることが出来ない。メリットばかりでなく、デメリットにも目を向けて導入を検討すべきである。(第2)

(恵庭) 絵の具セットなど、使えるものを保護者から集めて学校保管している。(第2)

(千歳) 以前勤務していた学校ではスケート靴のリサイクルを行っていた。集めたスケート靴をご家庭にレンタルし、そのレンタル料をスケート靴の刃の砥ぎ代に充てていた。(第2)

(恵庭) 文化祭のときにPTAが主体となって保護者から集めた制服やジャージをバザーという形でリサイクルしている。(第2)

■複数配置の利点を活かした「保護者負担の公費化」の実践について

(千歳) メリットとして、それぞれに仕事分担することで一つ一つの仕事にしっかり取り掛かることが出来る面はあるが、それを「保護者負担の公費化」に繋げられているかという点と難しい。(第2)

(石狩) 先輩が両方担当しているが、伝票等の処理や徴収は自分が行っている。金額が何にどれだけというのは分からない。(第3)

(北広島) 複数配置導入時は業務シェア禁止と言っていたが、今はチーム学校で事務職員同士も協力という流れ。導入時の弊害が残っている学校もある。(第3)

■「保護者負担の公費化」を他職種と共有し、保護者の理解を得る実践について

(石狩) 校内配分予算と事務部門の運営計画を連携会議の実践交流で発表してもらい、webサイトに載せている。情報公開は事務職員の仕事として重要なので予算公開実験を取り組む提案を行ったが、学校名を出して公開することに拒否反応を示す事務職員もいて取り組みが遅れた。現在は少しずつ公開している。学校への配当予算、児童生徒数、就学援助数、加配、人員配置は公開している。(第1)

(当新) 保護者向けには出していない。教職員向けに1回。就学援助について。(第3)

(江別) 事務職員間で校内編成予算の交流はしているが、対外的に公開するまではいってない。各校の配分予算が全校に配られるので事務職員間では知っている。(第1)

(北広島) 事務便りを年2回程度。各校の備品紹介やコラム等。先生方へ事務職員の取り組みを知ってもらう。(第3)

(恵庭) 事務便りを先生方向けに。HPは昨年システムがリニューアルされた。更新頻度は各校で差がある。(第3)

(千歳) 保護者に知ってもらうために何の紙面でもよいので情報公開をしていきたいと思いますという取り組みをし、半数が取り組めた。自分の学校では5月に決算と一緒に主な備品を載せたところ、保護者が来校時にこれが紙面に載っていたものかと質問されたので読んでいたことがわかった。アンケートを取った学校もあるようだ。また7校が学校便りに載せた。

(第5)